

学校教育目標	自主・自立をめざす生徒
目指す学校像	努力して夢を実現する学校(努力夢現)

重点目標	1 自立した学習者の育成 2 生徒理解に基づく生徒指導・教育相談の充実 3 保護者・地域との連携と信頼関係の深化 4 健康でたくましい生徒の育成と教育環境整備の充実 5 教職員の資質向上とチーム力の向上
------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和8年3月16日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	学びの指標を基に、生徒の実態に応じた分かりやすく楽しい授業を実践し、ICT やデジタル教科書、スタディサプリの活用により、学習への苦手意識が軽減され、関心・意欲の向上が見られた。また、単元計画や授業内目標の提示により、見通しをもって学習に取り組む姿勢が育成され、学級討議やチャレンジスクールの活用促進により、多様な対話を通じて自己のキャリア形成が進んだ。しかし、全国学力学習状況調査、さいたま市学習状況調査において、「学習の習熟度」に課題がある。また、将来に向けた「努力」に関する非認知能力に課題がある。	自立した学習者の育成	<ul style="list-style-type: none"> 授業の基本「授業規律」の徹底 基礎学力定着を目指す指導法の工夫 アナログとデジタルのベストマッチの授業実践 個別最適な学びと協働的な学びの充実 単元内個別進度学習による授業実践 	生徒アンケート「学び合い、話し合い、考えを深める」「自ら課題を見つけ、自ら考え、解決する」「ICT 機器を効果的に活用する」の項目で、肯定的な回答を90%以上にする。各種調査やテストの結果を実施のたびに段階的に向上する。	生徒アンケートの結果「学び合い、話し合い、考えを深めること」93.4%、「自ら課題を見つけ、自ら考え、解決」97.1%、「ICT 機器の効果的活用」95.5%と、いずれも肯定的回答が90%を超えた。各種調査、テストの結果が段階的に向上できた。	A	生徒は意欲的に授業に参加しているが、定着率に課題がある。そこで教科会中心に、新生徒用 iPad や WORLD CLASSROOM (英)の活用も含め、単元を見通した授業を行い、教科好きを増やすとともに、単元チェックによる「やればできる」の実感を高め、生徒の力を最大限伸ばす。	学校運営協議会からは、スタサプの継続と WORLD CLASSROOM など新しい学習ツールの活用を進め、多面的な学びで定着率を高めてほしいとの意見があった。学習に取り組まない生徒には、時間を確保して取り組ませる支援が必要とされた。また、生徒が「やればできる」と感じられるよう、日常の努力を認め、ほめ、コーチングする指導が重要であると助言を受けた。
		キャリアプランニング能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> SCS、マタチャートを活用した意識の高揚 スタサプによる学習の個別最適化の充実 テスト計画表の作成指導の充実 提出物を全員回収する。 自制心とやり抜く力の育成 	生徒アンケート「将来の夢や希望をもち、自分なりに努力する」「スタディサプリ等を活用し、家庭学習をする」「定期テストに計画的に取り組む」の項目で、肯定的な回答を90%以上にする。提出物を期限内に提出する。	生徒アンケートの結果「将来の夢や希望をもち、自分なりに努力する」89.7%「スタディサプリ等を活用し、家庭学習をする」68.8%、「定期テストに計画的に取り組む」79.4%と、約80%の肯定的な回答を得ることができた。提出物は概ね提出できた。	B	生徒は将来の夢や希望をもち努力しているが、家庭学習や定期テストへの計画的取組に課題がある。そこで進路・基G担当を中心に、SCS や面談で目標の言語化と振り返りをし努力を可視化する。スタサプや計画表を活用し学習習慣を高め、継続して努力する力を育てる。(自走力)	
2	スクールカウンセラーを活用した生徒指導や教育相談体制(Sola るーむ含む)の充実により、生徒が安心して学べる環境となり、毎日の施設安全点検や地域と連携した取組により、安心安全度合が高い状態である。また、健康委員や煌委員会による調査・発表活動により、生徒が自主的に健康・安全な行動に対する意識が高まった。今年度も引き続き、よい状態を継続していきたい。	生徒理解に基づく生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ダメなもののはダメの指導の徹底 自ら進んで貢献する生徒の育成、煌賞 先手の挨拶、言語環境を整備し、適切な言葉遣いができる生徒の育成 生徒会活動、校則見直し委員会の充実 生命尊重教育、道徳教育の充実 	生徒アンケート「あいさつや時間を守り、清掃をしっかりとる」「行事や生徒会活動を自主的に進める」「交通ルールを守り、安全に登校する」の項目で、肯定的な回答を90%以上にする。	生徒アンケートの結果「あいさつや時間を守り、清掃をしっかりとる」96.7%「行事や生徒会活動を自主的に進める」99.2%、「交通ルールを守り、安全に登校する」98.8%と、いずれも肯定的回答が90%を超えた。全体的に規範意識のある生活ができた。	A	生徒は規範意識をもち生活しているが、自主自立の途上にある。そこで生徒会や生徒指導担当を中心に、80周年行事をはじめ各行事や学級活動への主体的な参画機会を上げ「自己有用感」を育てる。また、凡事徹底を基に、コーチング手法を生かして自己指導能力を鍛える。	学校運営協議会からは、相手の立場に立って考える姿勢を育てること、困ったときにSOSを出せる力をさらに伸ばすことが重要であるとの意見があった。人権教育の推進は有効であり、「ダメなもののはダメ」と指導する姿勢も必要とされた。また、人間関係スキルを高めるため、生徒自身が経験し、課題を解決していく過程を支援することが大切であると助言を受けた。
		生徒理解に基づく教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育の充実 プロアクティブな教育相談活動の充実 特別支援教育の充実(弾力的運用) 生徒の居場所づくり(Sola るーむ等) SOS の出せる生徒の育成 スクールカウンセラーの有効活用 	生徒アンケート「差別やいじめを許さず、思いやりのある生徒」「困ったとき、悩みを相談ができる」の項目で、肯定的な回答を90%以上にする。信頼自己、信頼他者の項目を段階的に向上する。	生徒アンケートの結果「差別やいじめを許さず、思いやりのある生徒」98.3%、「困ったとき、悩みを相談ができる」98.4%と、いずれも肯定的回答が90%を超えた。解決スキル、言語的スキル、信頼他者信頼自己、の項目が段階的に向上した。	A	生徒は人権意識をもち生活しているが、何気ない一言で相手を傷つける場合もある。そこで人権・相談担当を中心に人権意識を高め、人間関係スキルを育てて共感的人間関係を築く取組を進める。また、困ったときにSOSを出せるよう、日頃から愛情たっぷり接する。	
3	学校行事や授業参観、保護者にSkull配信により、より学校の様子が分かるようになった。学校運営協議会において、「学力向上・自助共助・人権教育」のビジョンを共有・熟議し、生徒ボランティアが盛んになってきた。今年度も引き続き、学校公開と学校運営協議会のビジョンの共有と取組の熟議を行っていききたい。また、同会議に生徒の参加も進めたい。	情報発信と地域とつながる授業展開	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ・スクール協働ビジョンの推進(学力向上、自助・共助、人権教育) 積極的な授業公開 情報発信の充実(HP、Skull、たより) 地域人材を活かした教育活動の推進 	保護者アンケート「学校の様子を分かりやすく伝える」「保護者や地域に教育活動を公開する」「地域と連携した特色のある取組がある」の項目で、肯定的な回答を90%以上にする。学校運営協議会で取組を行う。	保護者アンケートの結果「学校の様子を分かりやすく伝える」97.5%、「保護者や地域に教育活動を公開する」100%、「地域と連携した特色のある取組がある」95%といずれも肯定的回答が90%を超えた。学校運営協議会で認知症サポーター養成講座実施できた。	A	学校の情報発信や地域人材の活用(年12回)は好評だが、保護者や学校運営協議会との連携や年間指導計画との結び付きが弱い面もある。そこで学校CN中心に、カリマネデザインマップを活用した単元と連動した生徒と保護者が協働する地域とつながる授業を探っていききたい。	学校運営協議会からは、地域との対話の場を広げ、座談会などで生徒が自分のコミュニティを越えて関わる機会を増やすことが重要との意見があった。ボランティアは地域とつながる大切なきっかけとして評価され、継続を望む声があった。また、土曜授業の周知や卒業式のしおり、校歌斉唱の工夫など情報提供の改善も求められた。
		地域の期待に応え、地域で活躍する人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> 地域貢献をテーマにした総合的な学習の時間の充実 未来の地域の担い手、エージェンシーの育成 生徒1人年1回以上、ボランティア活動の参加促進 	保護者アンケート「保護者や地域の人々の期待や願いに応えている」「地域の行事に関わっている」の項目で、肯定的な回答を90%以上にする。ボランティア機会を増やす。	保護者アンケートの結果「保護者や地域の人々の期待や願いに応えている」97.5%、「地域の行事に関わっている」92.5%と、いずれも肯定的回答が90%を超えた。ボランティア機会を8回増やすことができた。	A	地域ボランティアは年26回・延べ260名が参加し活発だが、授業における地域とつながる取組は弱い。そこで総合・学校CN担当を中心に、地球視点で捉え地域で実践する学びを通して、未来の地域を担う人材の育成を進めたい。	
4	教育環境の根本である生徒の基本的な生活習慣においては、概ね良好である。また、給食や学校施設の安心安全、予算執行においてもしっかりと整備・実施されており、よい状態である。今年度も、引き続き、よい状態を継続していきたい。	健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 自己健康管理、学校保健委員会の充実 部活動の充実 進んで体力向上に努める生徒の育成 小・中一貫教育の推進 	生徒アンケート「睡眠・食事等、常に健康に気をつける」「意識して体力づくりを行う」「部活動などに楽しく、意欲的に参加する」の項目で、肯定的な回答を90%以上にする。	生徒アンケートの結果「睡眠・食事等、常に健康に気をつける」92.6%、「意識して体力づくりを行う」77.3%、「部活動などに楽しく、意欲的に参加する」93.0%と、体力づくりに関する項目以外、肯定的回答が90%を超えた。	B	生活習慣がしっかりしている生徒が多いが、体力づくりや個別課題も見られる。そこで、養護・保健体育・部活動担当を中心に、睡眠・朝食・体力づくりなど健康づくりの取組や個別面談を充実させるとともに、スマホの使用も含め、小・中一貫の取組を模索していく。	学校運営協議会からは、朝食をしっかりととり、体の基盤をつくることが重要であり、部活動でも食習慣を意識させてはどうか、また、授業中の姿勢も指導してはどうかとの意見もあった。また、体力と精神力には因果関係があり、逞しさの育成にもつながると助言された。生徒には逆境でも頑張れる力を身に付けてほしいとの声があった。
		教育環境の整備の充実	<ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで安全な生活ができる生徒の育成 学校施設点検と即時修繕の徹底 献立を生かした給食指導の充実 学校予算の効果的な活用 	生徒アンケート「施設や設備が安全で快適である」「避難経路や指示が分かりやすく避難行動がとれる」「給食が安心安全である」の項目で、肯定的な回答を90%以上にする。	生徒アンケートの結果「施設や設備が安全で快適である」97.5%、「避難経路や指示が分かりやすく避難行動がとれる」98.7%、「給食が安心安全である」98.7%と、肯定的回答が90%を超えた。	A	生徒は安全・防災への意識が高まっているが、けがも見られる。そこで安全・養護・事務・用務担当を中心に、予算を効果的に活用し、点検と迅速な修繕を徹底して安全な環境を維持する。それと同時に、安全指導の徹底も図る。	
5	授業改善に向けた公開授業の実施、スタディサプリア活用研修や STEAMS TIME 研修、人権講演会を行い、指導力向上を図り、教職員のスキルが上昇した。今年度も更なる向上を目指し、研修を進めていききたい。	教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> 研修履歴を活用した自主研修の実施 人事評価面談による意識の高揚 相互授業参観(年3回)の実施 学びの指標の個々の向上 校務分掌等OJTにより実践力の育成 	学びの指標で80%以上、教職員アンケート「学校目標に向けた指導」「将来の夢や希望に関する指導」「校内研修」の項目で、肯定的な回答を80%以上にする。学びの指標を個々に向上する。	学びの指標で80%以上、教職員アンケート「学校目標に向けた指導」85.0%「将来の夢や希望に関する指導」77.5%、「校内研修」82.5%と、将来の夢や希望に関する指導以外、肯定的回答が90%を超えた。	B	教職員は個々や全体の研修により資質が向上したが、将来の夢や希望に関する指導には課題がある。また、次年度は新生徒用 iPad への習熟も求められるため、基G担当を中心に iPad を年間通じて最優先事項として校内研修を進める。	学校運営協議会からは、将来の夢に繋がる校外学習としてキッザニアは有効であり、生徒が大人と触れ合う機会を意図的に設けることが大切との意見があった。12回の外部講師による指導も評価され、教職員の研修意欲を前向きに捉える声があった。また、新 iPad は生徒とともに学ぶ姿勢も重要と助言を受けた。
		チーム力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 組織の一員として協働作業の充実 教育公務員として信頼される誠実な行動の促進 業務の見直しの強化 仕事分担の公平化 	教職員アンケート「生徒との対話」「報告、連絡、相談」「家庭や保護者との連携」の項目で、肯定的な回答を80%以上にする。	教職員アンケート「生徒との対話」85.0%「報告、連絡、相談」92.5%、「家庭や保護者との連携」87.5%と、いずれも肯定的回答が80%を超えた。	A	教職員はチームとしてよく協働しているが、分掌の均衡化や風通しのよい職場づくりをさらに進めたい。そこで、人事配置や分掌の再編、業務の精選、風通しアンケートを通して時間的、心理的余裕を生み、さらなるチーム力の向上を図る。	